

Q3 家族そろって夕食をとる頻度

【鍋料理の日】



普段の夕食とは違い、「鍋の日」は父が帰るまで待つ「土曜の夜など、みんなが集まりやすい日に鍋をする」という意見がほとんどでした。

【1週間のうち】



週に2日以下という家庭が47%で、約半数を占めています。特に、働き世代が属する家庭は「仕事が休みの日のみ」という回答が多いようです。

Q1 よくする鍋料理は何ですか？

- 1位 水炊き 35 票
- 2位 寄せ鍋 20 票
- 3位 しゃぶしゃぶ 11 票

福岡県の郷土料理が堂々の1位。寄せ鍋は「カキなど旬の食材で」という意見が多く見られました。

Q2 家族の中の「鍋奉行」は誰？

- 1位 母 68 票
- 2位 父 22 票
- 3位 その他 10 票

「鍋の日は普段料理をしないお父さんが、すっかり鍋奉行と化し、はりきっている」というご家庭も。

し、鍋に関する質問と同時に、各家庭の現状を探るアンケートを行いました。鍋事情を知れば家庭の食卓が見えてくる。そして、家族で過ごす時間も伺い知ることが出来ます。あなたのご家庭では、週のうちのどのくらい家族そろって夕食をとっていますか。

さて、寒さも本格的になってきたこの季節、福智町のご家庭ではどのような温かい鍋を囲っているのでしょうか。今回、町内各地を回って100人の皆さんに突撃取材。「同じ鍋をほしで直接つくって、一緒に食べた人との親近感がわいてくる」と。ここ数年はその魅力が改めて見直されています。食事も家族バラバラという家庭が多く、家族団らんの機会が少ない現代ではなおさら、鍋料理は「家族のきずな」を深めてくれる温かい料理として、大きな役割を果たしてくれているのです。

大勢でテーブルを囲み、おいしさだけでなく、なごやかで楽しいひとときを与えてくれる冬の風物詩、鍋、家庭の中では何か「特別な献立」という印象を持つのは湯気の向こうで普段厳格な父の表情もやわらかくなる、そんな心を温める力があるからではないでしょうか。

街角アンケート
突撃！
福智の鍋事情

寒い季節に大活躍する「鍋」、家族がバラバラで食事をとりがちな今、鍋料理が注目されています。



アンケートに答えてくれた人に、家族についてのメッセージを書いていただきました！

【テーマ】
うちの家族自慢



日本に鍋料理が浸透してきたのは、意外と最近のこと。1700年代前半の異文化交流により、一つひとつ小皿に分け、身分や地位によって皿数や盛り方が違っていったそれまでの正式な日本料理とは違い、大皿の料理をみんなで食べる楽しみが浸透していきました。1800年ごろになると江戸で鍋ブームが起こり、その後、現代のように「日本の料理」として定着します。